

感染症科

1. 体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室と同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行っている。今年度の特徴としては、新型コロナウイルス・パンデミック下において感染制御活動に対する協力体制を敷いたこと、及びスタッフによる診療体制をさらに強化して、初期研修医の院内教育および院内医師への感染症治療指導を充実させたことである。

a. スタッフ

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
丸毛 聡	呼吸器内科・感染症科兼務	部長（Infection Control Doctor, ICD）
上村 良	消化器外科・感染症科兼務	副部長
井上 大生	呼吸器内科・感染症科兼務	副部長（Infection Control Doctor, ICD）
中島 俊樹	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
稲野 将二郎	血液内科・感染症科兼務	副部長
瀬野 陽平	糖尿病内分泌内科・感染症科兼務	専攻医
大沢 一希	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
新美 完	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
櫻井 靖久	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
辻村 敦史	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
内原 嘉仁	小児科・感染症科兼務	専攻医
岩田 直也	小児科・感染症科兼務	専攻医
酒井 達紘	小児科・感染症科兼務	専攻医
酒井麻里子	腎臓内科・感染症科兼務	専攻医
大橋 倫子	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	専攻医
杉山 純平	脳神経外科・感染症科兼務	専攻医
大堂真一郎	初期研修医（SR 2）	
喜多村恭平	初期研修医（SR 2）	
岩阪 晋吾	初期研修医（SR2）	
羽生 敬	初期研修医（SR2）	
中川隆太郎	初期研修医（SR2）	
大島 正義	初期研修医（SR2）	
勝二 隆志	初期研修医（SR 1）	
渡邊 圭崇	初期研修医（SR 1）	
梅田 隆志	初期研修医（SR 1）	

岡部 康教 初期研修医 (SR 1)
 大倉千明 初期研修医 (SR 1)
 小田原洋一 初期研修医 (SR 1)
 鹿野友美夏 初期研修医 (SR 1)
 重田祐衣 初期研修医 (SR 1)
 白井良宜 初期研修医 (SR 1)
 田村汐里 初期研修医 (SR 1)
 槇田美緒 初期研修医 (SR 1)

看護師 (専従感染管理認定看護師) :

永田 万結 看護部主任

薬剤師 :

上田 覚 薬剤部係長 (抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師)
 高橋 有 薬剤部主任 (感染制御認定薬剤師)
 小林 和博 薬剤部主任 (感染制御認定薬剤師)

臨床検査技師 :

宇野 将一 臨床検査技師部副技師長
 中塚 由香利 臨床検査技師部主任

b. 診療実績

1. 感染防止対策加算対象の院内感染症に関する取り組み

(1) 感染症治療介入

管理抗菌薬使用患者、血液培養陽性患者、重症感染症患者をリストアップし、毎週木曜日にカンファレンスを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った。令和 3 年度は 2275 件であった。(令和 2 年度 2496 件、平成 31 年度 2199 件、平成 30 年度 1884 件、29 年度 2322 件、28 年度 2126 件)。

内訳 :

リ膠	眼科	形外	血液	呼内	呼外	産婦	児外	耳鼻	小児
103	5	24	372	329	20	48	14	22	109

消外	消内	心外	循内	脳神外	脳神内	泌尿	腎内	整形	糖内
292	276	45	137	100	66	75	79	45	31

乳腺	皮膚	精神	腫内	救急	外来	計
20	16	0	47	0	0	2275

(2) 抗菌薬の適正使用の推進 (Antimicrobial Stewardship Team, AST 活動)

抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、感染症カンファレンスの際に感染症科医師と検討し、診療支援を行った。

(3) TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬について、また、使用方法に疑問があれば AST 担当薬剤師が相談に応じた。使用状況を確認し、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視した。その際に解決できない症例については、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

2. 広域抗菌薬長期投与者への介入

- (1) 2015 年 1 月より、カルバペネム系抗菌薬を 15 日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始している。カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム・ピペラシリン長期投与者は 95 件 (延べ 63 人)、抗 MRSA 長期投与者 52 件 (延べ 26 人) となり、合計件数は 147 件 (延べ 89 人) であった。(令和 2 年度 89 例、令和元年 (平成 31 年) 度 79 例、平成 30 年度 77 例、平成 29 年度 72 例、平成 28 年度 49 例)。対象患者数は横ばいであった。

3. 職員研修

- (1) 第 2 回 ICT・AST 合同講習会 『抗菌薬適正使用の必要性～耐性菌の観点から～』
中塚 由香利 臨床検査技師
- (2) 第 3 回 ICT・AST 合同講習会 『菌血症の診療 (成人編) —抗菌薬適正使用のために—』
稲野 将二郎 先生
- (3) 第 4 回 ICT・AST 合同講習会 『AMR 対策アクションプランの振り返り～北野病院の現状について～』
高橋 有 薬剤師、小林 和博 薬剤師 e-ラーニング
- (4) 2021/10/16 救急講義『抗菌薬の使い方』
中島俊樹先生

4. 感染症科業務

- (1) 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日
血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、翌カンファレンスにて介入症例を検討の上、指導した。令和 3 年度 581 件である (令和 2 (2020) 年度 631 件、H31・R 元 (2019) 年度 977 件、H30 (2018) 年度 819 件、H29 (2017) 年度 487 件、H28 (2016) 年度 603 件、H27 (2015) 年度 232 件であった。
- (2) 感染症診療対診+随時コンサルテーション
主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、2021 年度は 101 件 (2020 年度 122 件、2019 年度 87 件、2018 年度 108 件、2017 年度 108 件) の対診と随時コンサルテーションを受

けた。

(3) B型肝炎防止プロジェクト 月1回

前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に6596件の検査警告メールを配信した(2020年度6218件、2019年度6467件、2018年度4895件)。また、随時質問を受けている。

対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド(中等度以上長期にわたる症例)投与患者のうち、HBs抗原、HBc抗体、HBs抗体検査が未実施の患者

(4) 入院中TBアラート 月1回

長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医へレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告。

(5) 梅毒アラート 月1回

2021年度は年間23件(2020年度30件)に対して梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。届け出されていない場合には保健所に届けるよう勧告した。

c. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

【論文】

原著

1. 高橋 有、小林 和博、上田 覚、伊藤 俊和、尾上 雅英

白内障手術後における経口第三世代セファロスポリン系薬の予防的投与中止への取り組みと中止に伴う影響について、日本病院薬剤師会雑誌 2021年、57巻9号、940-944.

2. 上田 覚、岡田 麻佑、伊藤 俊和、小林 和博、高橋 有、丸毛 聡、羽田 敦子、片山 俊郎、尾上 雅英

基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生大腸菌に起因する尿路感染症に対するセフメタゾールの投与回数の違いによる有効性の比較検討、日本病院薬剤師会雑誌 2022年、58巻2号、167-172.

【学会発表】

1. 小林 和博

『感染領域における革新的な業務展開を通じたスキルアップ』

第31回日本医療薬学会年会 シンポジウム 2021年10月9日・10日

2. 井上大生、丸毛聡 他

「医療・介護関連肺炎における炎症性バイオマーカーと予後との関係 ～多施設共同研究の結果より～」

第95回日本感染症学会総会 2021年5月7日

3. 羽田 敦子

「小児科におけるウイルス感染症の診断と治療：小児科で特に注意すべき感染症」

第53回日本小児感染症学会 ランチョンセミナー4 講演 2021年10月10日

【院外活動】

特になし

【講演会】

ICD 認定更新用講習・教育企画、外部講師招聘

第 19 回北大阪感染症研究会

日時：2021 年 3 月 11 日（金）17：50～19：30

場所：完全 WEB 開催

ICD 認定更新用講習・教育企画、抗菌化学療法認定医・指導制度 教育企画、
日本医師会生涯教育制度外部講師招聘

（一般演題）

座長：公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 泌尿器科

部長 宗田 武 先生

（一般演題 1）

『 test negative case control design study による新型コロナワクチンの実際の有効性 』

演者：公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 感染症科

中川 隆太郎 先生

（一般演題 2）

『 基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ産生大腸菌に起因する尿路感染症に対するセフメタゾールの投
与回数の違いによる有効性の比較検討 』

演者：公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 薬剤部

上田 覚 先生

（一般演題 3）

『 メロペネム・タゾバクタム・ピペラシリン使用下における腸内細菌叢への影響 』

演者：公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 リウマチ膠原病内科・感染症科

大橋 倫子 先生

（特別講演）

座長：公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院 小児科・感染症科

部長 羽田 敦子 先生

『 With / post コロナ時代に生体防御を操る腸内細菌叢 』

演者：京都府立医科大学大学院医学研究科 生体免疫栄養学講座

教授 内藤 裕二 先生